

提案書評価基準

1 基本的な評価事項

表1の評価項目・評価の着目点に応じた倍率を考慮し、評価を行います。各評価項目の評価の視点は、表2のとおりとします。

各委員の評価点数の合計点が最も高い提案者を第一順位とします。最も高い提案が複数ある時は「業務実施方針及び提案内容」の合計得点が最も高い提案者を第一順位とします。

上記の方法によりなお、第一順位が決定しない場合は出席委員の多数決により第一順位を決定します。それでもなお決しない場合は委員長が第一順位を決定します。

表1 基本的評価事項

評価項目	評価の着目点	配点	評価	評価点
業務実績等 (15点)	企業の過去10年間の同種又は類似業務の実績	5		
	現場責任者の過去10年間の同種又は類似業務の実績	5		
	担当者の過去10年間の同種又は類似業務の実績	5		
業務実施方針 及び 提案内容等 (60点)	本業務の趣旨及び目的を理解しているか	10		
	20~40年後の地域社会像の想定と施設の未来像を考えるうえでのアプローチが具体性を伴って、論理的に説明されているか。	10		
	未来想定と現状差を踏まえた施設ビジョン構築に向けたワークショップの設計が論理性と実効性を伴っているか。	10		
	各ワークショップの目的・構成・進行方法が具体的かつ現実的に示されているか。	10		
	適切なスケジュール管理が提案されているか	10		
ヒアリング (20点)	業務実施に必要な体制を整え、業務遂行能力が高い体制か。また、柔軟に本市の要望に応じられる体制の工夫があるか	10		
	取組意欲の感じられる提案であるか	10		
加算項目	業務に必要な専門的知識を持ち、質問に対して受け答えができるか	10		
	評価の着目点	配点	評価	評価点
その他 (5点)	ワーク・ライフ・バランスに対する取組等 (次世代育成支援対策推進法による認定の取得、女性活躍推進法に基づく認定の取得、又は、よこはまグッドバランス賞の認定の取得)	5		
評点の合計 (100点満点、評価項目と加算項目の評点の合計)				

2 評価方法

(1) 業務実績等については、A、C、Eの3段階評価を行う。なお、同種又は類似業務については次のとおりとする。

ア 同種業務

- ・地方自治体の中長期的な政策立案にかかる調査・検討業務

イ 類似業務

- ・公共施設の在り方・再編方針の策定業務
- ・公共施設マネジメント推進検討支援業務

(2) 業務実施方針及び提案内容等については、A、B、C、D、Eの5段階評価を行う。

(3) ヒアリングについては、A、B、C、D、Eの5段階評価を行う。

(4) その他については、A、Cの2段階評価を行う。

(5) 評価点について、次のように配点を行う。

配点にA=5/5、B=4/5、C=3/5、D=2/5、E=1/5を乗じて算出する。

ア 業務実績等

配点5点：A=5点、C=3点、E=1点

イ 業務実施方針及び提案内容等

配点10点：A=10点、B=8点、C=6点、D=4点、E=2点

ウ ヒアリング

配点10点：A=10点、B=8点、C=6点、D=4点、E=2点

エ その他

配点5点：A=5点、C=0点

(6) 評価委員1人でも、評価項目（業務実績等を除く）のうち1項目でも評価がEとなった場合は選定しない。

(7) 評価項目（業務実績等を除く）合計点の平均が6割未満の場合は不適格とする。

表2 評価の視点

評価項目	評価の着眼点	評価				
		A	B	C	D	E
業務実績等	企業、現場責任者及び担当者の、過去10年間の同種又は類似業務の実績	同種の業務実績がある		類似の業務実績がある		該当する業務実績がない
業務実施方針及び提案内容等	本業務の趣旨及び目的を理解しているか	極めて的確に理解している	的確に理解している	理解している	あまり理解していない	理解していない
	20~40年後の地域社会像の想定と施設の未来像を考えるうえでのアプローチ	未来社会像と施設未来像が明確に示され、複数の信頼性の高い情報に基づき、論理的かつ具体的なアプローチが体的に説明されている。視点の幅広さと実現可能性も示されている。	未来社会像と施設未来像が明確で、妥当な情報を伴った論理的説明があり、アプローチも具体的。ただし、視点や情報の幅がやや限定的	未来社会像と施設未来像の方向性が示され、論理的に説明されている。アプローチは概略レベルだが、一定の具体性がある。	未来社会像や施設未来像が抽象的で、論理性が弱い。アプローチは曖昧で、具体的手法が示されていない。	未来社会像や施設未来像がほとんど示されておらず、論理性・具体性が欠如。アプローチが不明確で評価困難。
	未来想定と現状差を踏まえた施設ビジョン構築に向けたワークショップ設計の論理性・実効性	未来想定と現状差を的確に分析し、ビジョン構築との関連が高度に論理的で、設計は具体的かつ実効性が非常に高い。	未来想定と現状差を踏まえ、論理性・実効性とともに十分で、設計は概ね具体的で妥当性が高い。	未来想定と現状差を考慮し、論理性と実効性を一定程度備えた設計で、基本的な要件を満たしている。	未来想定と現状差の反映が弱く、論理性や実効性に欠け、設計の具体性が不足している。	未来想定と現状差を踏まえておらず、論理性・実効性ともに欠如している。
	ワークショップの目的・構成・進行方法	目的が明確で段取りが精緻、進行がスムーズかつ柔軟で、効果的な成果が強く期待できる。	目的が明確で段取り・進行が適切に整えられ、効果的な成果が十分に期待できる。	目的が明確で段取り・進行が基本的に適切であり、効果的な成果が一定程度期待できる。	目的や段取り・進行に曖昧さがあり、適切さや成果の期待度が低い。	目的が不明確で段取り・進行が不適切、成果が期待できない。
	適切なスケジュール管理が提案されているか	計画性があり、今後の行程が見通せる内容である	十分に考慮された提案である	妥当な提案である	あまり計画性がある内容ではない	計画性がなく、今後の見通しが乏しい内容である
	業務実施に必要な体制を整え、業務遂行能力が高い体制か。また、柔軟に本市の要望に応じられる体制の工夫があるか	本市と十分に意思疎通を図る仕組みや、柔軟に対応できる体制が提案されており、万全な実施が期待できる	本市と連絡・調整ができる仕組みや体制等が提案されており、円滑な実施が期待できる	妥当な体制である	十分な体制が配置されていない	体制が不十分であり、業務遂行が懸念される
ヒアリング	取組意欲の感じられる提案であるか	強い意欲が認められる	十分に意欲が認められる	意欲が認められる	あまり意欲が認められない	意欲が認められない
	業務に必要な専門的知識を持ち、質問に対して受け答えができるているか	極めて的確に受け答えができる	的確に受け答えができる	受け答えができる	あまり受け答えができるない	受け答えができるない

加算項目	評価の着眼点	評価				
		A	B	C	D	E
その他	ワーク・ライフ・バランスに対する取組等 (次世代育成支援対策推進法による認定の取得、女性活躍推進法に基づく認定の取得、又は、よこはまグッドバランス賞の認定の取得)	取得している、又は認定されている		いずれも取得していない、又は認定されていない		